

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990900110		
法人名	エフビー介護サービス株式会社		
事業所名	グループホームエフビー木綿の郷		
所在地	栃木県真岡市下高間木一丁目7番地1		
自己評価作成日	令和2年9月10日	評価結果市町村受理日	令和2年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamapp/hvoka/003hvoka/hvokanri.nsf/aHvokaTop?0
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	令和2年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街に立地しており、ショッピングモールやドラッグストア・飲食店も増えてきており生活しやすい環境で過ごして頂けます。木造平屋建ての温かみを感じることができ、南側には旬の野菜や植物を育てることに、程よい菜園があります。菜園で採れたばかりの食材を、利用者様と職員とで調理をし味覚を通じて話題作りも行っております。また、清潔で快適な環境での生活をサポートできるような環境整備へも力を入れております。新型コロナウイルス感染症での影響により、地域交流への場としての認知症カフェが今期開催自粛せざる負えなくありますが、地域貢献の一環として新たに施設の区間(真岡地区)での生活支援整備事業への参加をしております。家庭的な雰囲気のもと、個別ケアを中心としたケアを心掛け、馴染みのある職員と穏やかな生活が送れる施設を目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・法人の理念を記載した手帳を職員全員に配布し、朝礼で唱和などして、内容を確認している。
- ・終末期には、本人・家族と話し合い通院受診を往診に切り替えて対応している。また、医療連携加算やターミナル加算の体制整備をしている。職員は看取りに関する研修を年2回行っている。
- ・食事委員会が献立を作成し、手作りで食事を提供している。季節の献立を取り入れたり、誕生日やイベントの時は利用者の意見を取り入れた献立にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念と介護方針を基本として、全職員で日々朝礼や読み合わせを行っております。利用者様とご家族の安心感と満足を目指し、こころ温かい事業所そして心の優しい人間集団を意識しています。	法人の理念を記載した手帳を職員全員に配布し、朝礼で唱和などして内容を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣のショッピングモールを利用し、地域交流を図っている。また、真岡市介護相談の受け入れも行っている。	近隣の商業施設で食材や昼食のテイクアウトなどの購入をしている。新型コロナ禍の影響で、認知症カフェの開催は自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症により、認知症カフェを自粛しておりますが、認知症家族会や生活支援体制整備事業への活動へ参加し、地域貢献を実施しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催しておりますが、新型コロナウイルス感染症により2月以降より資料・会議紙面を郵送し開催しております。また返信用封筒を同封し、意見・要望を記載いただき次回議題など意見交換に代えさせて頂いております。	感染症対策のため職員だけで運営推進会議を行っている。話し合われた内容や行事、入居状況、事故報告などを載せて、市担当者や包括職員、民生委員、町会長へ報告している。また返信用封筒を同封し意見を貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より確認が必要な際は、連絡をし回答を頂けるようにしております。認知症カフェ運営推進会議等参加をし、情報共有を行っております。	市の担当者とは、新型コロナへの対応の相談をしたり、利用者の受け入れの相談をしたり、相互の協力関係を継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回身体拘束適正化のための研修を開催し、3か月に一度身体拘束適正化委員会を開催し、全職員が身体拘束をしない・させない取り組みを実践しております。	3ヶ月に一度、身体拘束委員会を開催している。虐待の研修では職員が交代で講師を行い、アウトプットをして理解を深めている。法人から配布されている手帳には、スピーチロックの具体例を載せて、意識ができるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間社内研修の必須事項として、社内研修を実施し、どのようなことが虐待にあたるのか等理解を深めております。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉概論の倫理・介護保険法及び自立支援・法令順守し、サービス提供の実践できるよう社内研修を実施しております。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終結時には、提供するサービス内容への説明をすると共に、利用者様・ご家族様の要望・思いを伺い、サービスに反映が出来るよう努めております。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱・苦情窓口を設置し、ご家族様への面会時や連絡時には現状をお伝えできるよう努めております。	現在はタブレット端末で月に2回、家族と利用者が面会をしている。利用者からは、外出等の要望が多くあるが、コロナウイルスの影響で要望に応えられていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロアカンファレンス(両ユニット)参加や全体会議として、職員との意見交換をし、意見を反映できるよう努めております。	毎月、各ユニットのケアカンファレンスと両ユニットの会議を開催し、職員の意見を聞いている。年2回、管理者が職員と面接を行い、意見を聞き取り反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり、定期的に自己評価と上司評価があります。個人目標への計画を立てることも人事考課に練り込まれており、個人が目標達成できることを目指しております。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修への情報提供し、参加を促しております。自己啓発し、専門的知識や人間力向上を目指しております。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	多職種連携研修への参加を促し、他事業所との交流する機会を増やせるように呼び掛けております。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前には事前訪問を行い、本人様やご家族様のお会いし、生活歴などお伺いし理解と寄り添う気持ちを大切にし、信頼関係構築に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様やご家族様へも、困っている事や不安な事への聞き取りをし、施設生活を送っていくことへの不安感を少しでも軽減することに努めていき、可能な範囲内の要望等実現できるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・ご家族との思い等、事前訪問での情報を基に、職員間でディスカッションを行い出来る事・できない事を把握し、サービス提供に取り組んでおります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性を大切にし、尊重する中で共同生活が個々の役割分担や、信頼関係を築けるような関係性を目指しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から日常の情報や相談を行えるように心掛け、本人様とご家族様が程よい距離感や関係性を保てるように努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症により、自粛生活が続く中で面会制限をせざる負えない状況ではありますが、ご家族様を中心にウェブ面会やハガキでの連絡を実施しております。	家族や友人とは、ハガキでのやり取りを実施している。コロナウイルスの影響で馴染みの人との接触や外出等は制限されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がよい関係性を保てるように、職員が介入をし孤立しないような環境づくりや関わり合いが持てるよう支援しております。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者様へは、来所時や連絡をする際には、会話をする時間を設けるようにし、退去後も相談しやすい体制であることをお伝えしております。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の生活が快適で楽しいと感じて頂けるように意向の聴取やご家族様へも連絡したり、必要に応じて入居以前の介護サービス事業所へ聞き取りを実施している。	日々の支援の中で職員は利用者の要望を聞き取っている。また利用者の家族などからも意向を聞き、生活リハビリを取り入れたケースもある。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様にはもちろん、ご家族様や面会に来られた親戚(御友人等)へも情報が得られるように配慮している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態の申し送りや報告書・社内連絡事項・経過記録を基に、職員間で情報共有に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族様へ聞き取りを行った、趣味や嗜好・要望など介護計画に反映させて作成している。フロアミーティング等により、随時個別ケアの見直しを実施している。	毎月のケアカンファレンスを行っている。利用者の状態は職員のミーティングで意見を吸い上げている。家族からも意見を聞き取り、介護計画に反映している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録や温度板(食事・排泄・水分等)を基に、職員間で情報共有を行い現状把握し介護計画へも反映できるよう取り組んでいる。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに対応できるように、日々の利用者様の会話に耳を傾け、柔軟なサービス対応を心掛けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域情報誌や広告で得た情報を活用できる機会を取り入れた支援を目指していきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前より、かかりつけ医がある方へは継続して受診をして頂いております。必要に応じて直接医療機関への連絡や、ご家族様と共に受診対応も行っております。	殆どの利用者は、入所前のかかりつけ医を継続し家族対応で受診している。本人・家族の通院が難しくなってきたら、かかりつけ医を往診に切り替えている。情報共有ツールを利用し、主治医や訪問看護との連携を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を週1回依頼しており、医療面の相談・受診の必要性などの連携を図っております。事業所でも看護職員配置しており、状態の把握に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療連携シート作成し情報提供を行っております。医療機関よりも、医療連携シートを頂いております。新型コロナウイルス感染症のため、必要最低限の面会を実施しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より見取りの意思を確認をとっており、看取りを実施する際は、本人・家族の同意を得た上で家族様との意向を十分とりながら多職種との連携を図りながら対応していきます。	終末期には、本人・家族と話し合い通院受診を往診に切り替えて対応している。また、医療連携加算やターミナル加算の体制整備をしている。職員は看取りに関する研修を年2回行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて緊急時の対応・事故防止を実施しております。また、菅軸消防署や警備会社より心肺蘇生法等訓練を図り対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練を年2回実施している。日中・夜間を想定して、利用者様を交えて避難する方法・対策を整えています。	年2回、避難訓練を実施している。水害対策はハザードマップを事業所で作成中である。備蓄品のリストを作成し、消費期限を確認して買い替えを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年に1度、社内研修にて倫理・法令順守プライバシー保護について、社内研修を実施している。家庭的な雰囲気や大切にし、丁寧な対応へも心掛けております。	社内研修でプライバシーの保護についての研修を行い、入浴時や排せつ時の声掛けなどのケアに反映させている。各居室は、利用者が内側からカギをかけることができ、プライバシーが確保されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との関わりを多く持ち、自己実現が可能なように働きかけをし、自己表現が困難な方へもコミュニケーションを怠らないように努力しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り利用者様本位の視点での対応が出来るよう心掛け、一人ひとりにあった生活リズムやスタイルに合わせて支援が出来るよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が可能なように、衣服を選んでもらう事など整容が行いやすいように、お声がけをしたり準備等支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の希望を取り入れた、献立メニューやイベントや誕生日など要望を聞き取りの実施や、利用者様と一緒に調理や片付けを行う事により、話題作りの支援にもつなげております。	食事委員会が献立を作成し、手作りで食事を提供している。季節の献立を取り入れたり、誕生日やイベントの時は利用者の意見を取り入れた献立にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合った、食事形態や分量を把握をし提供している。食事摂取量や必要に応じて、水分チェックも行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアへのお声がけを実施している。ブラッシングや洗口剤等も使用し、口臭予防などへの配慮も個別にケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表をタブレットで管理する事で、排泄パターンの把握や定期的な排泄のお声がけを行い、自然な形で排泄への自立支援を行っています。	入居前は自宅でおむつを使用していた利用者がアセスメントを十分に行い、排泄チェックや定時誘導などにより、リハビリパンツやパットの使用へと改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事提供時に、乳製品や食物繊維の多い食事提供を心掛け、必要に応じて水分チェック管理の実施。また、日常的に体操などを取り入れおこなっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴スケジュールを活用はしているが、利用者一人ひとりへ入浴する時間帯など、当日聞き取り柔軟に対応しています。	入浴スケジュールはあるが、利用者の希望や状態により、柔軟に変更をしている。入浴剤を使用し、季節によっては、菖蒲やゆず湯を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に活動状況を把握し、無理強いせず自然なリズムでの睡眠がとれるようにしています。また、照明や室温の調整等の環境へも配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬やセットミスがないように、継続して服薬マニュアルを活用しております。処方せんの内容など情報共有をし、全職員が把握できるようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握して、その方の楽しみを共感しあえるように取り組んでいます。個別の嗜好品や喫煙等を職員管理で提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症により、外出自粛や面会制限により、ご家族様と外出・外泊が行えていませんが、施設近辺への散歩等で気分転換を図っています。	コロナ禍であるため、外出支援や家族との外出を中止している。事業所近辺の散歩は適時行っている。	コロナ禍の対応は、法人本部から事業所に一任されているため、事業所内での新しい外出支援の取組み方法が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ行った際は、ご自身の好きな物を選んでいただき購入していただいております。また、ご家族様相談に自己管理能力に応じて金銭を所有されている方もおります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有されている方もおり、利用者やご家族様より要望がある際は、その都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造建ての壁紙が白を基調とした作りになっており、南側に大きな窓より採光が入り温かみを感じることが出来る。テラスのベンチなどでくつろげるスペースもある。	大きな窓から採光が十分に取れ、事業所全体が明るい環境となっている。観賞用の植物、テラスでのパラソルやテーブル、畳の部屋などを工夫して配置され、心地よく過ごしやすい環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、気の合う利用者様同士が会話を楽しむことが出来るよう配慮している。畳の和室では、利用者様がくつろいだり、小上がりになっているため囲碁を楽しまれるよう配置もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのクローゼットやベットやエアコン・洗面台が備え付けられており、ご家族様へ馴染みのある家財を持ち込みのご協力により、心地よく過ごして頂けるよう配慮している。	居室はベッドやタンス、洗面、エアコンが備え付けられている。利用者はタンスやテレビなど馴染みの家具を持ち込んで使用している。利用者によっては、家族の写真などを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋建てのバリアフリーとなっており、各所へ手すりが設置され、扉はすべて引き戸となっており軽い力での開放も可能である。歩行や車椅子での移動の障害となるものがないように、環境整備にも配慮している。		